

「口之島小・中学校の盆踊り伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立口之島小・中学校

2 学年・人数

小学生（1年1人，2年2人，4年2人，5年3人，6年2人）

中学生（1年1人，2年1人，3年1人） 合計13人

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成28年8月8日（月）～1週間 （生協販売所近く）

平成28年8月14日（日） （生協販売所近く）

（2）発表の日時・場所

平成28年8月15日（月）・16日（火）

トンチ（殿地）及びテラ（墓地）での奉納

4 伝承活動に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡

（1）名称

口之島の盆踊り・狂言（くちのしまのぼんおどり・きょうげん）

（2）由来

口之島伝統の「盆踊り」は，約200年以上も前から継承されたものである。口伝だけの方法で伝えられ，演じ続けられてきた。独特の言語による会話や仕草は，参加者全員が真剣に練習を重ねなければ踊れない内容である。

（3）構成等

子どもたちによる小踊り，男性による先踊りの後，狂言が踊られる。狂言は，1番～3番までの場面があり，それぞれが物語形式になっている。トンチでは悪人による狂言が加わり，テラでは笑い話が加わる。全体的には5つの場面になるようである。

5 保存会や地域との連携の具体

保存会は自治会が主体となり、青年団を中心に役を決め、教職員も協力して約1週間練習し、本番に臨んでいる。口伝のみのため指南役が踊って見せ、甚句を一言ずつ伝え、厳しく指導される。また、小学生以下が参加する小踊りも、自治会長が指南役となって指導し、本番には場面ごとの合間に小踊りが入る。山海留学生として本校に通っている児童や、盆に合わせて帰省した口之島出身者の子どもも参加している。

男性しか参加できない盆踊りには、裏方で活躍する女性のサポートがあり、食事や飲み物、浴衣の準備の気配りや、合いの手を入れるなど、場面を盛り上げてくれる役も担っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

口之島に伝わる伝統芸能を体験したことで、将来は島に帰ってきてくれるか、あるいは盆の時期だけでも帰ってきてくれることも望みながら参加を呼びかけている。島独自に開催される多くの祭りの中でも、この「盆踊り・狂言」は、最も重要で大切な行事として守られている。

盆踊りは「島の神様に奉納するものである」とう島の人々の熱い思いや信仰が強く根付いており、この時期以外に演技は見られないのが現状である。

7 取組の様子（練習状況、発表の様子）



口之島盆踊り



口之島狂言



小踊り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

過去には、盆の時期に島に残る児童生徒が数人だったこともあり、島民が寂しく思っていた時期もあったらしいが、現在では未就学児施設も開設され、参加する子どもも増えてきている。また、盆踊りを楽しみに来島する観光客も増えている。子どもたちや教職員は「参加した」という経験が、自信にもつながり、自治会としても喜んでいる状況である。